

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日（※当事業年度の中間配当の予定はございません）
公告の方法 電子公告により、当社ホームページ（<http://www.fujipream.co.jp>）に掲載いたします。
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、
 日本経済新聞に掲載いたします。

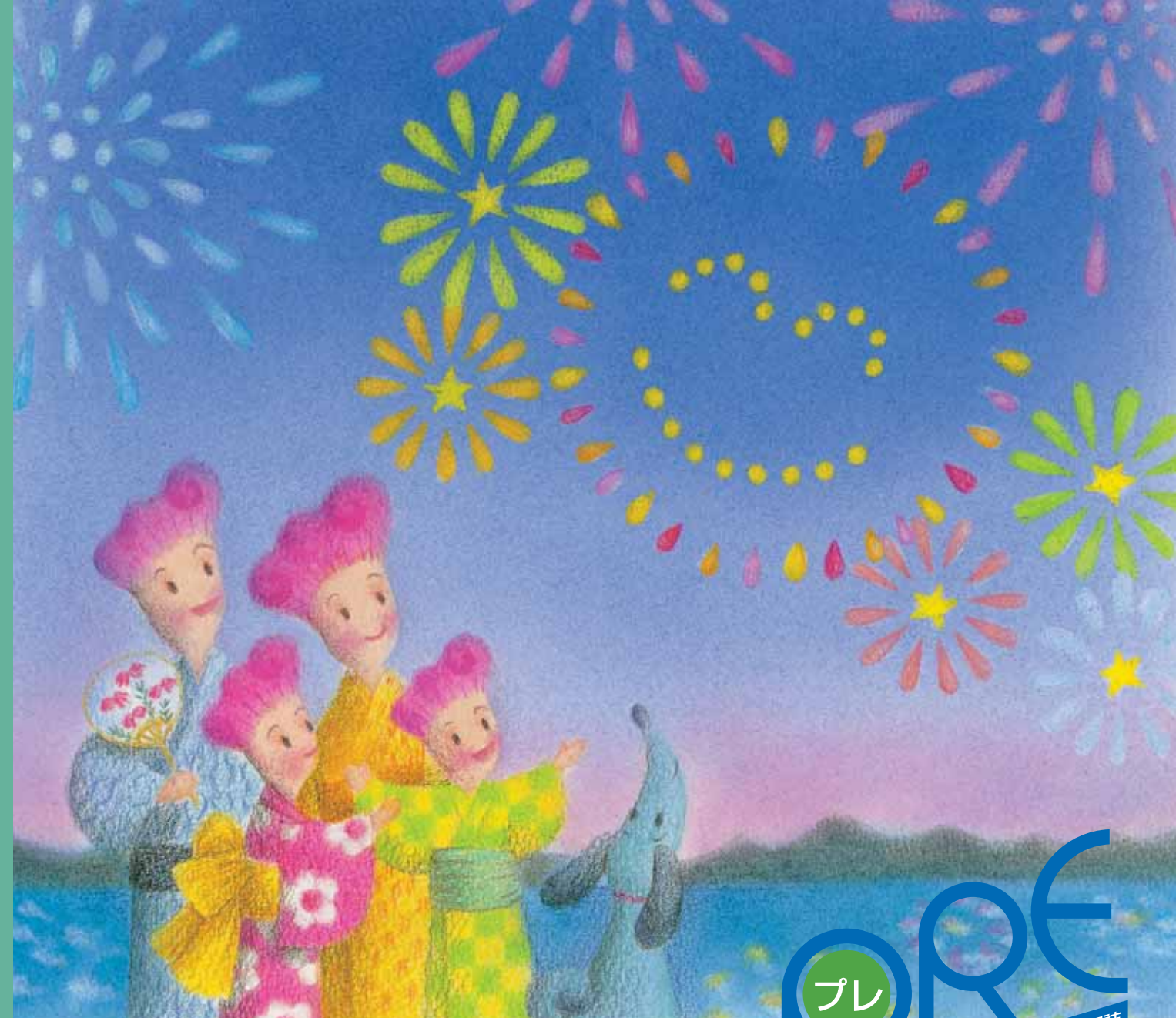
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
 （お問い合わせ先） 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 電話 0120-094-777（通話料無料）

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店
 ※株式関係のお手続き用紙のご請求は、
 次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
 電話（通話料無料）
 0120-244-479（本店証券代行部）
 0120-684-479（大阪証券代行部）
 ホームページアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>



フジプレミアム株式会社

〒671-2216 兵庫県姫路市飾西38-1 TEL.079-266-6161 FAX.079-266-6738



第26期年次報告書



株主、投資家の皆様へ

株主の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、当社グループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第26期(平成20年3月期)年次報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社グループの平成20年3月期の事業成績は、主力事業であるフラットパネルディスプレイ(FPD)部門において、市場の中でドラスティックに再編成、再構築が繰り返される等競争が更に激化している中で、当社グループは、独自の技術力と開発力を踏まえた投資を積極的に行い、PDP用光学フィルターのトータル生産効率を従来の5倍と大幅に向上させることに成功しました。それは受注数量の順調な増加に繋がり、対前年比増収増益という結果を残すことができました。クリーン・エコエネルギー部門を代表する太陽光発電事業においては、世界的なセル材料調達不足や、またそれにより当社PV工場の稼働率が低迷状態であった事等が要因となり、計画通りの結果とはなりませんでした。

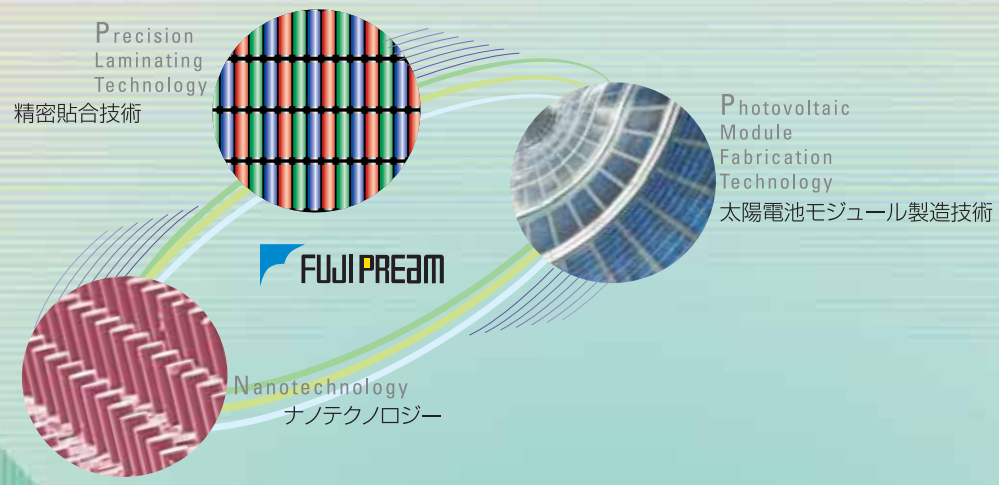
今期に入り、なお世界的な原油価格の高騰や金融不安等もあり、経済環境は予断を許さない状況が続くものと思われませんが、当社グループのFPD関連事業は北京オリンピックの開催や地上波デジタル放送開始を間近に控えた需要の増加を見込み、増産体制の構築及び合理化施策を推進する投資を行い、更なる受注の獲得、利潤の確保を図ってまいります。当社グループの優位性は、今期以降も引き続き、更に大きな成果を生み出すと考えています。また、今回の投資は、長期計画の中の第一段階に過ぎず、今後も手を緩めることなく、ひたすらモノづくり精神を持ち続け、更なる生産効率向上を目指してまいりたいと思っております。

また、クリーン・エコエネルギー部門では太陽光発電関連事業において、ようやく太陽電池モジュール及びシステムが、国内外の多くの顧客からの依頼を受け、確実な基盤を築いているところでもあります。また、材料不足等、業界内の不安感が前面に出ている中でも、当社は様々な取組みや投資を行ってまいりました。その結果、これまで30%程度であったPV工場の稼働率が100%以上を見込めるところとなりました。それが、今期後半から来期以降の大きな飛躍要因になると期待し、当社グループ事業の双壁として、積極的な事業展開を推進してまいりたいと思っております。

株主、投資家の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

松本實藏

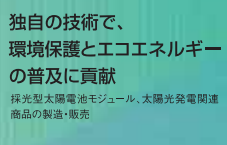


フジプレアムは、
3つのコア技術で時代を拓きます。

フジプレアムは、研究開発型企業として3つのコア技術を基本に、時代と顧客のニーズに的確に応え、人々の豊かな暮らしに貢献することを目指しています。日々急速な進歩を遂げるディスプレイデバイス業界、持続可能な社会づくりに寄与するためのエコエネルギー市場、これからの未来を支えるナノテクノロジーの世界において、さらなる技術の向上と、新たな技術の取得に努めています。



最先端テクノロジーで、ディスプレイデバイス業界を牽引
PDP用光学フィルター、液晶偏光板フィルム等光学機能性フィルムに関する製品の製造・販売



独自の技術で、環境保護とエコエネルギーの普及に貢献
採光型太陽電池モジュール、太陽光発電関連商品の製造・販売



時代の基幹技術「ナノテクノロジー」を、産学官で共同研究
放射光による超微細加工技術の研究



特

集

フジプレミアムの 生産技術開発事業本部の取組み



今回の特集では、
取締役生産技術開発事業本部副部長の池田尊士さん(写真右)と、生産技術開発事業本部統括部長兼メカテック事業部長の上田豊さん(同左)にお話を伺います。

生産技術開発事業本部はどのようなことを行っている部署ですか。

研究開発部、新規事業部、メカテック事業部で構成されています。

生産技術開発事業本部は、3つの事業部で構成されています。研究開発部、新規事業部、メカテック事業部で、人員は30名程の組織です。主に、新しい次世代の商品の開発と生産技術の改革を手掛けています。

ものづくりの基本には、4Mというものがあります。Man(人)、Machine(機械)、Material(材料)、Method(方法)です。新商品の開発には、この4つの専門的な技術が必要となってきます。

どのような技術かという基本的には、(1)プロセス技術、(2)材料技術、(3)設備技術です。ものづくりには、この3つの責任分担と協力が重要になるのです。生産技術開発事業本部の中での責任分担は、研究開発部はプロセス技術、材料技術の基本技術を担当します。そして、新規事業部は新しい事業の事業計画から、工場の建設や設備の導入、据え付け、調整等を専門に行います。メカテック事業部はオリジナル設備の設計と開発を担当します。

なぜ、3つの事業部で組織されているのですか。

情報を共有して、作業を進めることで、必要な課題をスピーディに無駄なく推進できます。

3つの事業部は一般的には分かれているのが普通だと思いますが、当社はそれが1つの部署として組織されています。新商品の開発にあたっては、特に、スピードが重要です。各担当の技術者が並行して作業を進めていかなければなりません。3つの各事業部が情報を共有して、仕事を進めることで、必要な課題をスピーディに無駄なく推進できる組織体制となっています。その方が競争力が高くなるからです。

ステップとしては、まず初めに、事業化が狙える新しいテーマを見つけます。そこから、研究開発部で要素の研究を行います。次に、新規事業部でフジプレミアムの新しい事業として取り組める事業性の検証を行い、事業計画を立てると共に工場設計と建設を進めます。そして、メカテック事業部で、生産性の良い装置や生産ラインを構築していきます。

Method

Man

Machine

Material

次

世代の商品の開発と生産技術の改革に取組み
他社の追随を許さない盤石な体制を構築していきます

当社では、精密貼合(てんごう)技術をコアテクノロジーとして、プラズマディスプレイパネルの画像を美しく、安全に見るために欠かせない光学フィルターの製造・販売を主力に、太陽光発電システム等の他、様々な製品を開発しています。

「PRE」Vol.14の特集では、コアテクノロジーを基盤として、世の中から求められる製品をいち早く製品化するための、当社の体制とその取組みをご紹介します。

現在、どのような開発が進んでいますか。

PDP用光学フィルターそのものの設計ができるような基盤技術強化です。

研究開発の大きなテーマは、PDP(プラズマディスプレイパネル)用光学フィルターと太陽光発電システムです。現在、当社のPDP用光学フィルター事業は、精密貼合技術を中心とした「加工技術」が中心です。PDP用のガラスとフィルムを貼り合わせる加工技術だけでなく、光学フィルターそのものの設計ができなければ、今後、生き残っていくのが難しいのではないかとみています。

そのためには、新たに「フィルター設計技術」、「材料設計技術」を加えて、PDP用光学フィルター事業としての基盤技術の強化を図りたいと考えています。特に、光学フィルムの中で、色彩設計技術と粘着塗工技術を確立することを、当面の目標としています。

光学フィルターの色彩設計では、色彩を調整したり、人体や機器に影響のある波長等を遮断するために、フィルムを貼り合わせる粘着剤の中に様々な染料や顔料を入れ込んでいきます。この部分は当社が光学フィルター分野で付加価値を高められる部分で、強みになると考えています。基本技術は、ほぼ完成しましたので、もう少し、コスト面なども含め量産化に向けての試作研究を進めていきます。



メカテック事業部の取組みは どのような内容ですか。

品質面、コスト面等で他社の追随を許さない革新的な生産技術を構築します。

その他、メカテック事業部を主体として、顧客からの、更なる低コスト化、高品質化の要求に応えるための取組みを並行して進めています。例えば、昨年は、製造方法そのものを見直し、貼合ラインのトータル生産効率を5倍と飛躍的に高めることに成功しました。このように、品質面、コスト面等で他社の追随を許さない革新的な生産技術の構築に取り組んでいます。市販の装置を購入して、設備を構築することは、他社でもできることですし、時間もかかってしまいます。当社の高い競争力の源泉はメカテック事業部が支えているのだと思います。



太陽光発電システム分野では
いかがですか。

農地として土地を活用できる太陽光発電システムを開発中です。

太陽光発電システム分野では、次世代の太陽光発電システムであるトラッキングシステムの開発を進めています。トラッキングシステムとは、パネルがひまわりのように太陽に向かって動いていくシステムです。従来のシステムでは、土地に直接設置しますので、土地は他の用途に使うことはできませんでした。しかし、トラッキングシステムは土地にポールを立てる方法ですので、土地を有効に活用することができます。有休土地を有効に活用し、例えば、農地で食料を生産しながら、さらに、エネルギーも生成し売電ができるということが可能になります。河川地域等全国の遊休地にトラッキングシステムを導入しますと、国内に必要なエネルギーの3~4割をまかなえるという試算ができます。今年の秋頃に、市場に投入できるように開発を進めています。競合も多くありますので、当社としては、設置する場所や環境等を総合的に勘案して提案することで、差別化を図りたいと考えています。

株主のみなさまへ。

技術開発に取組み、地球環境問題の解決に貢献していきたいと考えています。

昨年来、薄型テレビ市場では、PDP陣営には、事業の撤退や縮小、統廃合等、向かい風が吹いています。ただ、PDP用光学フィルター関連業界においては、当社を含め数少ない業者に淘汰されつつあります。PDP用光学フィルター事業に関して、フィルター基盤技術の更なる強化と、最先端の生産技術の強化を図ることによって、コスト競争力をより高め、他社の追随を許さない盤石な体制を構築していきたいと考えています。また、人口の増加に伴う食料不足やエネルギー不足が地球規模で問題となることが予想されています。このような深刻な地球環境問題の解決に寄与する次世代太陽光発電システムの技術開発に取組み、世界に貢献していきたいと思えます。



フジプレミアム
が選ぶ

TOPICS: 1

6月、ドイツで開催された「InterSolar 2008」に
出展しました。

【日時】平成20年6月12日(木)～14日(土)
【会場】ドイツ・ミュンヘンNew Trade Fair Centre



TOPICS: 2

平成20年度の入社式を行いました。

【日時】平成20年3月26日(水) 9:00～
【会場】フジプレミアム本社 大会議室
平成20年度の新入社員の入社式を行いました。松本社長は訓示の中で、「世間では最近、職場で『叱る』ということをしなくなりました。人間関係の煩わしさを避けるために事なかれ主義で見過ごしてしまうのです。しかし結局、それは双方の成長を妨げることとなります。フジプレミアムは『叱る』職場です。自分のために叱ってくれる良い先輩を見つけ、自分を成長させて下さい。それが、結果として、会社の成長につながるのです」と語りました。新入社員達はみな、目を輝かせながら熱心に耳を傾けていました。

TOPICS: 3

証券会社、証券アナリスト向け決算説明会を開催いたしました。

【日時】平成20年5月28日(水) 13:00～14:00
【会場】野村証券本社ビル6F
平成20年3月期の決算発表を5月16日に行いました。そして、5月28日に証券会社、証券アナリストの方々にお集まりいただき「平成20年3月期決算発表説明会」を開催いたしました。

TOPICS: 4

当社研究用の農業ハウスのマンゴーが今年も実りました。

当社では、新形態採光型太陽電池モジュールを利用した農業ハウスにて、フルーツマトや高級イチゴの栽培を研究しております。昨年は、兵庫県で初めてのポット植えによるアップルマンゴーの栽培に成功しました。今年も、立派なマンゴーが実りました。



TOPICS: 5

AEDを設置しました。

本社、姫路工場、光都工場にAED(自動体外式除細動器)を設置しました。AEDは心臓発作が起こった場合、心臓に電気ショックを与えて、正常なリズムに戻すための医療機器です。救急車が到着する前にAEDを使用すれば、救命率が数倍も高いことが明らかになっています。

TOPICS: 6

5月、ドイツのSCHOTT Solar社とセル材料調達について合意しました。

近年のPV(太陽光発電)市場の急激な拡大に伴い、PVモジュールの基幹材料であるシリコン不足が深刻化しており、いかにそれらを調達できるかが、PV事業を発展させる重要な要素となっております。これらの課題について、欧州市場で長年にわたり太陽光発電ビジネスを展開しているSCHOTT Solar社との協力体制の構築により、結晶系シリコンセル材料の安定調達、欧州市場での実績の確保、世界的な知名度の向上を図ります。相互的な事業協力をし、欧州市場はもとより、広域アジアへの展開、当社の持つ差別化商品の開発等、さまざまな事業展開を図ってまいります。

【SCHOTT Solar 社の概要】
太陽電池生産量：ドイツ第2位、世界第8位(2006年度) 2006年度売上高：約3.5億ユーロ
従業員数：約900名 (SCHOTT Solar GROUP)

夜空を彩る大輪の花火は、まさに夏の風物詩といえます。今回は播磨周辺で開催される花火大会をご紹介します。一瞬で燃え尽きる花火の美しさ、花火が開く瞬間、お腹の底に響くドーン!という音。播磨周辺の涼しげな風情も合わせて、会場でしか味わえない大迫力を満喫してください。

播磨探訪: VOL.12 「花火」を楽しむ

1 姫路みなと祭り海上花火大会



姫路みなと祭海上花火大会は、18:30から巡視船、消防艇の放水と海上パレードが行われ、その後、19:30から花火大会が始まります。開花の直径が300mにも達する10号玉の打ち上げ花火は必見です。

【開催日時】7月26日(土) 19:30～20:45
【会場】姫路港(兵庫県姫路市飾磨地区)
【アクセス】山陽電鉄飾磨駅から南へ徒歩約25分。当日は会場まで無料臨時バス運行
【入出(見込み)】約6万人、花火の発数約3000発

2 加古川まつり花火大会

兵庫県で最大の一級河川、加古川の中洲から花火を打ち上げます。河川の周囲には視界をさえぎるものがなく、広い範囲で花火を鑑賞できます。

【開催日時】8月3日(日) 19:30～21:00
【会場】加古川河川敷緑地河原地区(兵庫県加古川市)
【アクセス】JR神戸線加古川駅から北西へ徒歩15分
【昨年の人出】約16万人、花火の発数約3000発

姫路菓子博2008レポート



橋下大阪府知事が大阪のお菓子のPRに駆けつけました



菓子職人が製作に1年を費やした大作「姫路城 白鷺の夢」です



開会式の模様。姫路市出身で菓子博の広報宣伝局長を務める歌手の松浦亜弥さんが登場

2008年4月18日(金)から5月11日(日)までの24日間、兵庫県姫路市で「姫路菓子博2008」が開催されました。期間中の総入場者数は90万人。会場には、お菓子メーカーのパビリオンや、全国の有名菓子や菓子職人が趣向を凝らした工夫菓子の数々が展示され、多くの観光客で賑わいました。



砂糖やあめで帆船「日本丸」を見事に再現



第25回全国菓子大博覧会・兵庫
姫路菓子博2008
会期: 2008.4.18～5.11 | 会場: 姫路城周辺
http://www.kashaku2008.jp/

3 赤穂市民の夕べ

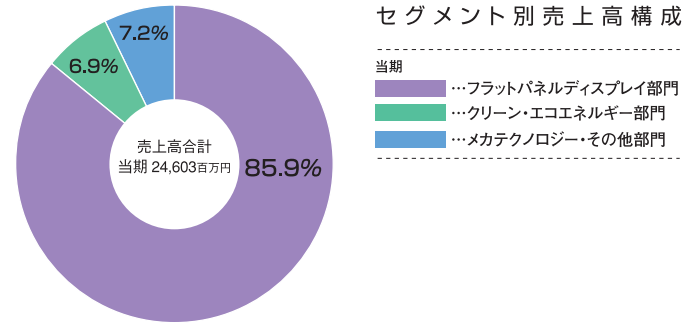
川の上に浮かべた台船から花火が打ち上げられます。音楽に合わせたメロディー花火や、銀滝などの仕掛け花火が楽しめます。

【開催日時】8月2日(土) 20:00～21:00
【会場】千種川河川敷(兵庫県赤穂市)
【アクセス】JR赤穂線播州赤穂駅から東へ徒歩15分
【昨年の人出】約5万人、花火の発数約2500発

事業の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、緩やかな回復基調にありましたが、年度後半以降、原油価格の急激な高騰、米国のサブプライムローン問題等による株式市場の大幅な下落や、円高の進行等の影響により、個人消費や景気の先行きに不透明感が出てまいりました。

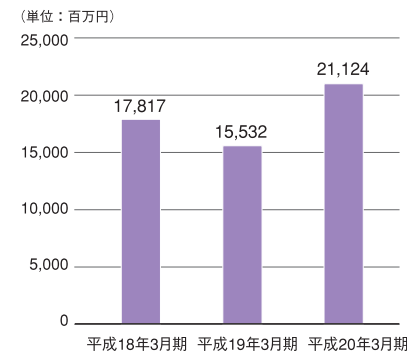
このような状況の中、当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ関連事業につきましては、PDP市場の拡大に伴う業界再編や価格低下の影響を受けながらも、生産体制の合理化及び設備の自動化に伴う生産性向上により、受注数量は順調に増加し、業績は堅調に推移いたしました。しかしながら、クリーン・エコエネルギー関連事業につきましては、材料の調達不足や新工場立上げの遅れ等が業績に影響いたしました。



フラットパネルディスプレイ部門

薄型テレビ市場の拡大により、当社グループの主力事業であるPDP用光学フィルター製品やその他光学機能性フィルム製品の需要拡大に繋がり、受注数量は堅調に増加いたしました。当社グループでは、需要の拡大に伴い生産ラインの自動化等、生産性の向上を図るとともに増産に対応し、売上及び利益の確保に大きく寄与いたしました。

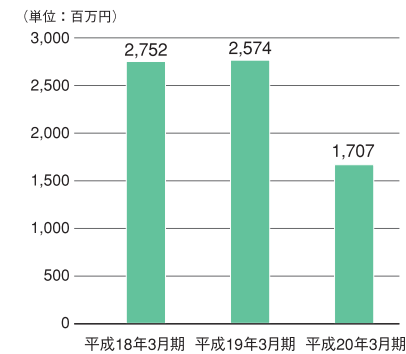
フラットパネルディスプレイ部門売上高



クリーン・エコエネルギー部門

太陽光発電市場及び関連業界の著しい拡大に伴い、太陽電池原材料がシリコンを中心に世界規模で不足しており、今後もしばらくはこの傾向が続くものと考えております。当社グループは、今後の事業展開を見据えて、安定した材料調達による競争力強化を目的に、世界的な販売網及び材料調達ルートの確保や自社商品の品質向上等に取組みました。

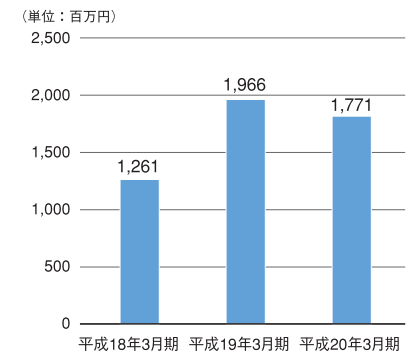
クリーン・エコエネルギー部門売上高



メカテクノロジー・その他部門

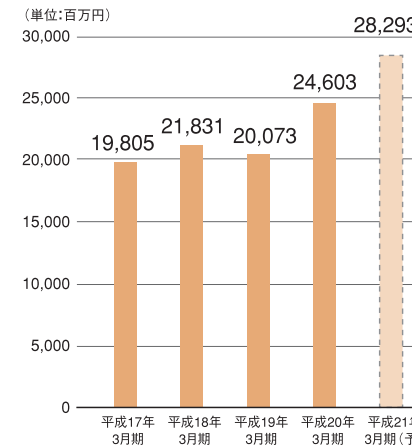
当部門におきましては、収益性向上を目的に事業の取捨選択等、再構築を行ったため販売が減少いたしました。産業用機械の販売や商事、物流事業等の事業は堅調に業績を伸ばし、利益率の増加に繋がりました。

メカテクノロジー・その他部門売上高

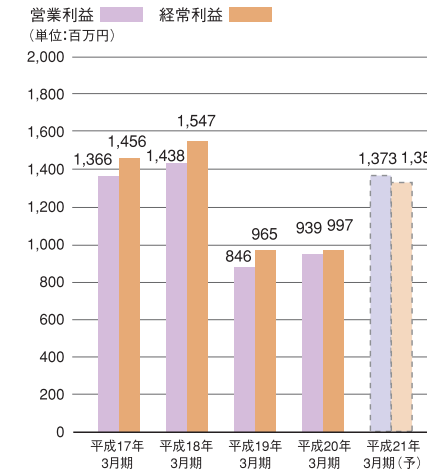


業績・財務ハイライト

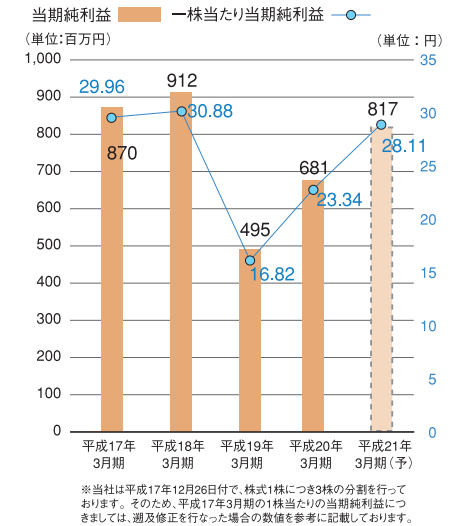
売上高



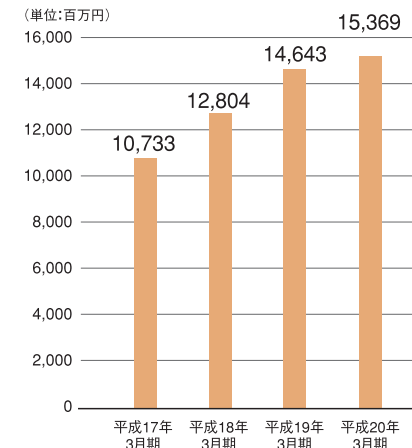
営業利益・経常利益



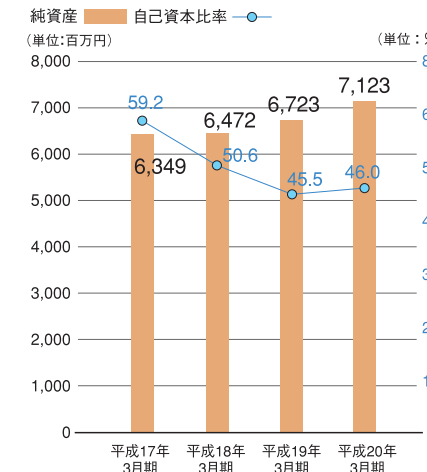
当期純利益・一株当たり当期純利益



総資産



純資産・自己資本比率



一株当たり純資産

